

令和 5 年度 富屋小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

(1) 基本目標

豊かな心と健やかな体をもち、自ら考え進んで学び、次代をたくましく生きる児童の育成

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）富屋の子：元気・根気・思いやり

○元気でやりぬく子 ○自分で考え進んで学ぶ子 ○仲間のために考えはたらく子

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

一地域に根ざし、児童が生き生きと活動する学校の創造一

富屋地区の特性は、恵まれた自然、豊かな歴史と文化、地域の人々の強い絆である。これらを基盤とした「潤いと活気あふれる学校づくり」に取り組み、児童が郷土を愛し、自立して力強く生きていくための「確かな学力・豊かな心・健やかな体」を育むことを目指す。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 地域の特性や教育力を生かした特色ある教育活動の推進
- (2) 道徳科の授業や体験活動を中核に、自他の生命を尊重し、感謝や思いやりなどの豊かな心を育成するための教育活動の推進による、いじめを生まない指導の充実
- (3) 自信や自己有用感を育成するため、積極的に児童一人一人のよさを認め励ます教育の推進により、居がいのある温かい雰囲気 of 学級経営等による、不登校を生まない支援の充実
- (4) 学ぶ意欲の向上と基礎・基本の確実な定着を図り、主体的に学ぶ態度の育成とともに、学習課題をはっきり理解させ、見通しを大切に「わかる授業」の一層の充実
- (5) 基本的な生活習慣の確立と社会性の育成を図る児童指導の充実
- (6) 自らの健康を大切にする能力や自己の安全を守る能力の育成
- (7) 勤務時間を意識した働き方の推進と、教育公務員としての使命感と誇りをもって、自らの資質の向上に努める職員研修の充実
- (8) 地域に開かれ、信頼される学校づくりの推進（地域はみんなの学校）

[晃陽地域学校園教育ビジョン]「未来を見据え、地域と連携し、子どもが生き生きと学ぶ晃陽地域学校園」

4 教育課程編成の方針

(1) 基本方針

- ・国、県、市の方針を受け、本校教育目標達成のための経営方針や努力点、学校評価の反省等を踏まえた編成
- ・基礎的・基本的な内容を重視しながら、創意工夫を生かした教育及び特色のある学校づくりを意図した編成
- ・カリキュラムマネジメントの視点のもと、教育活動全体を通して学校教育目標が達成されるような編成

(2) 留意事項等

- ・教育課程全体のバランスを図りながら、学習指導要領のねらいが実現可能な指導時間の十分な確保

- ・問題解決的な学習や体験的な学習による、主体的・対話的で深い学びの実現と、思考力、判断力、表現力の伸長
- ・学習形態や指導体制の充実による、個に応じたきめ細かな指導の充実
- ・道徳科の授業の充実による、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成
- ・外国語を通じて言語や文化についての体験的な理解と、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成
- ・総合的な学習の時間のねらいに即し、本校の特色を生かした横断的・総合的な学習や探求的な学習の推進と指導の充実
- ・相互関連が十分配慮された特別活動の実施と、自発的・自治的活動を高める指導の工夫
- ・すべての教育活動を通した、好ましい人間関係の構築と生活指導の充実、および「宮っ子の誓い」の意識化、実践化
- ・県・市の人権教育基本方針に基づいた、人権尊重の理念についての理解
- ・「元気っ子健康体力チェック」の結果を踏まえた指導の、より一層の充実
- ・自他の生命を尊重し、健康で安全な生活を営む態度を育成するための、交通安全教室や避難訓練等の効果的な実施
- ・コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段に慣れ親しみ、適切に活用できるようにする情報活用能力の育成
- ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の実践と、インクルーシブ教育の理念を踏まえた特別支援教育の推進
- ・「宮・未来キャリア・パスポート」の活用による、自身の夢や目標を実現しようとする意欲や態度の育成
- ・地域に根ざした総合的な学習の時間「富屋ふるさと学習」の推進による、地域を愛し、大切にしていこうとする態度の育成

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- （1）学校運営：学校・家庭・地域の連携体制を基盤とした、地域に根ざした信頼と魅力ある学校づくりの推進【創意工夫と活力ある教育活動の展開】
- （2）学習指導
 - 学力向上を目指す学習指導の改善と児童の学習習慣の形成
 - ・自分で考え、自分の思いを豊かに表現することができる児童の育成
 - ～互いのよさを認め合い、よりよい人間関係を築くための特別活動～
- （3）児童生徒指導
 - 自己有用感を育てる児童指導と個別支援の充実
 - ・生命の尊さを理解し、思いやりの心をもって正しく判断し、たくましく行動することができる児童の育成
- （4）健康（体力・保健・食育・安全）
 - ・健康的な生活習慣を身に付け、積極的に運動に取り組み、進んで体力を高めようとする児童の育成

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	A1 児童は, 他者と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① ICTを活用した教材・教具の工夫や、各教科、学級活動における話し合い活動の場の設定を積極的に行い、友達と協力して学び合う態度を育成する。 ② 主体的、対話的で深い学びを具現化するため、自分の考えをもち表現する場の設定を工夫する。	B	【達成状況】 児童 92.5% 教職員 94.4% ・上学年においては、タブレットを効果的に活用することにより、自分から学習に取り組む態度が向上した。 ・学級活動における話し合い活動の場に限らず、日常的に自分の意見を話せる児童が増えてきた。 【次年度の方針】 ・下学年においても、ICTを活用した学習の場面を設定していく。 ・学習活動の中で、自分の考えを表現する機会を増やす。
1- (2) 豊かな心を育む教育の推進	A2 児童は, 思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 各種特別活動において、縦割り班などの他との交流を深める活動を新たに取り入れ、活動内容を工夫し相手の立場を考えて思いやる心を育む。 ② 道徳科の授業を通し、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心などを育てる。 ③ 人権教育年間活動計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する	B	【達成状況】 児童 92.1% 教職員 100% ・縦割り班活動を行ったことで、その他の時間にも、学年を超えて関わることができ、上学年が下学年を助ける姿が見られるようになった。下学年においても、思いやりのある上学年になりたいという気持ちが芽生えた児童が多くいた。 【次年度の方針】 ・引き続き、縦割り班活動を行い、異学年交流を行っていく。 ・道徳科の授業や人権教育を通して、相手の立場を考えて活動する取り組みを継続していく。

	A3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、児童が自らのよさを自覚して夢や目標の実現に向けて取り組もうとする意欲や、望ましい勤労観や職業観を、全教育活動を通して意図的・計画的に取り組む。 ② 児童が粘り強く取り組む力を育むために、各教科の授業や行事において、児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を賞賛する。 ③ キャリアパスポートを有効活用するとともに、キャリアパスポートの趣旨を周知し、家庭への啓発に努める。	A 【達成状況】 児童 88.2% 教職員 100% ・児童が目標をもって取り組む機会を設けたり、目標の達成に向けて努力している児童を教師が見取り、賞賛したりするように努めた。 【次年度の方針】 ・総合のキャリア教育の時間における勤労観や職業観について、保護者や外部講師に話を聞く機会を設ける。 ・粘り強く取り組める児童の育成のために、目標の達成に向けて努力している児童を賞賛する。
1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 児童が自分の健康を管理できるよう、養護教諭と担任が連携した保健指導や日常生活指導を行う。 特に、メディアの使い方の指導を継続すると共に姿勢の指導を強化する。 ② 健康を意識した望ましい食習慣の形成を図るために、栄養士と連携した給食指導やアンケートを活用し食育だよりでの啓発を行う。 ③ 危険を予測し自らの命を守り抜く行動力を育成するため、日常指導における安全指導を充実するとともに、通学路指導、交通安全教室、避難訓練等を計画的に実施する。	B 【達成状況】 教職員 94.4% 保護者 90.5% ・お便りや掲示物、会議等で健康に関する情報を発信し、教職員・保護者共に数値指標を達成した。 ・姿勢に関する様々な取り組みにより、正しい姿勢を意識することができるようになってきたが、個人差も大きく、まだ定着するまでには至っていない。 ・登下校の仕方、日常生活での危険予測や防災の意識は継続した指導が必要である。 【次年度の方針】 ・引き続き養護教諭や栄養士と担任が連携した保健指導や給食指導、日常生活指導を、様々な形で行う。また、メディアの使い方と共に、さらに姿勢指導を継続して強化していく。 ・交通安全教室、避難訓練等を計画的に実施し、事前事後の指導を丁寧に行うと共に、登下校の指導を取り入れる。
1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 児童の自己肯定感を高められるよう、縦割り班活動を取り入れ、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、教職員も認め励ます指導に努める。 ② 道徳や特別活動の時間を中心に児童の自己肯定感の育成を図る。	B 【達成状況】 児童 91.8% 教職員 88.9% ・縦割り班活動を実施したことにより、上級生の規範意識が高まった。また、様々な場面で認め合う場、認められる場が増えたことにより、自己肯定感が高められたと感じた児童が増加した。 【次年度の方針】 ・次年度も縦割り班活動を継続して行い、児童相互だけでなく、教職員も含め、児童のよさや頑張りなどを認め合う場、伝え合う場を設ける。 (縦割り班活動時に振り返りの場を設定するなど、よさを伝え合う場を意図的に設ける。)

2- (1) グローバル 社会に主体 的に向き合 い、郷土愛 を醸成する 教育の推進	A6 児童は、英語を使って コミュニケーションして いる。 【数値指標】 全体アンケートにおける 肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 外国語活動を通じて、言語や文化 についての体験的活動を意図的に 増やしていく。 ② 学校内における ALT との交流の 機会を増やし、コミュニケーショ ンを図ろうとする態度を育成す る。	A 【達成状況】 児 童 81.9% 教職員 100% ・昨年度より、児童の数値目標は下が っているが、ALT との交流の機会が増えて いる。英語に限らず積極的に人と関わろ うとする意識には、個人差が見られる。 【次年度の方針】 ・休み時間など、授業以外で ALT と関わ る場を意図的に設定する。
	A7 児童は、宇都宮の良さ を知っている。 【数値指標】 全体アンケートにおける 肯定的回答 ⇒児 童 85%以上	① 生活科、社会科、総合的な学習の 時間の授業における「宇都宮学」や、 市内や地域での校外学習等におい て、学習内容に関連させながら児童 が身近な地域や宇都宮市の良さに 気付く指導に努める。 ② 教師自身が身近な地域や宇都宮 市の歴史、文化、伝統産業、特産物 等について理解を深められるよう に努める。	B 【達成状況】 児童 91.3% ・生活科、社会科、総合的な学習の時間 の授業における「宇都宮学」や、市内や 地域での校外学習等において、学習内容 に関連させながら児童が身近な地域や 宇都宮市の良さに気付かせることがで きた。 【次年度の方針】 ・引き続き生活科、社会科、総合的な学 習の時間の授業や、市内や地域での校外 学習等において、学習内容に関連させな がら、宇都宮市の良さに気付く指導を充 実させる。
2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A8 児童は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】 全体アンケートにおける 肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① GIGA スクール構想の趣旨を踏ま え、児童がタブレットや情報通信ネ ットワーク等の情報手段に親しみ、 適切に活用する能力を育成できる よう、授業において ICT 機器を活用 する機会を増やす。 ② 読書の時間や教師・読書ボランテ ィアによる読み聞かせの時間、図書 便りの発行等を通して、児童の読書 意欲を喚起する。	B 【達成状況】 児童 89.8% 教職員 100% ・授業のねらいを達成するために、ICT 機器を適切に活用するよう意識して授 業を実践することができた。 ・読書の時間や教師による読み聞かせ の時間、図書便りの発行等を通して、児 童の読書意欲を喚起することができた。 【次年度の方針】 ・教師の授業力向上のために、ICT 機器 を活用した授業を実践するための研修 を行う。
2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	A9 児童は、「持続可能な社 会」について、関心をも っている。 【数値指標】 全体アンケートにおける 肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 教職員自身の「持続可能な社会」 についての知識を深め、児童へ自然 や環境に関する各教科領域におけ る学習、児童会活動での呼び掛けを 行う。 ② 学校生活での節電・節水など、日 常指導を通して環境問題に対する 関心を高め、環境と調和しながら生 きる意識や態度を育成する。 ③ 学校での様々な取り組みを保護 者へ啓発するために、各種たより で知らせる。	A 【達成状況】 児童 88.2% 教職員 83.3% ・委員会が統合されたことにより、持続 可能な社会の理解を深める活動が昨年 度に比べて減少してしまった。 ・学校生活での節電・節水など、日常指 導については学級間での呼びかけの差 がある。 【次年度の方針】 ・教職員自身の「持続可能な社会」につ いての知識を深め、児童へ自然や環境に 関する各教科領域における学習の充実 を図る。 ・各種たよりのデジタル化により、資源 の節約に努める。

3- (1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① 特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、校内支援委員会やケース会議を開き、特別な支援が必要な児童に対する共通理解を図って一人一人のニーズを踏まえた組織的な支援を行う。 ② 特別支援学級の児童はもとより、通常学級においても、必要において個別の支援計画を作成し、それに基づく合理的な配慮を伴う指導に努める。	B 【達成状況】 教職員 94.4% ・数値指標は達成している。しかし、特別支援学級以外にも各学級内に特別な支援を必要とする児童が多数いるため、担任だけでは個に合わせた支援の難しさがある。 【次年度の方針】 ・組織的な対応を強化し、保護者との積極的な連携を今後も継続する。 ・特別支援教育について、保護者への分かりやすく伝える場を設ける。(学級懇談会や保護者会や講演会など)
3- (2) いじめ・不 登校対策の 充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 日ごろからいじめは許されない行為であることを指導するとともに、いじめゼロ強調月間で、スローガン募集やゼロリボン着用、いじめゼロ集会等を実施し、いじめゼロへの意識向上を図る。 ② 「生命尊重」「人権尊重」を重点項目とした道徳科の授業を各学年で実施する。 ③ 学校での取組を学校だより・学年だより、HP等で積極的に保護者に発信し、周知していく。 ④ 教育相談などを活用し、全職員がいじめの早期発見に努め、迅速に組織的な対応を行い、保護者との綿密な連携のもと、いじめの解消および、いじめを生まない学校づくりなどの積極的児童指導に取り組む。	A 【達成状況】 児童 99.2% 保護者 78.5% ・児童は、いじめゼロスローガンを考え、自分事として捉えられるようそれぞれが具体的なめあてを設定し、実践することを通して、いじめが許されない行為であることへの意識を高めている。しかし、保護者へ学校で行っている取り組みや様子を伝えることができていない。 【次年度の方針】 ・教育相談等を活用し、児童の気持ちに寄り添っていじめの早期発見につなげるとともに、児童同士がより良い関係を築ける学級づくりに努める。 ・いじめが許されない行為であることや、お互いを尊重することの大切さを重視した学級経営に努めるとともに、いじめゼロ強調月間の取り組みや日頃の人権教育の指導内容について、学年便り等の各種便りや、HP等で今年度以上に積極的に発信し、周知していく。
	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 90%以上	① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、全職員で児童を認め励ます指導に努める。 ② 教育相談、Q-U調査、欠席状況調査等の結果を活用し、不登校傾向のある児童の早期発見を行い、校内対策委員会を活用し、SCなどの外部人材とともに全職員体制で対策を講じる。	B 【達成状況】 児童 95.3% 教職員 94.4% ・日々の学級や児童の様子について、全教職員が職員会議などで共通理解を図ってきた。 【次年度の方針】 ・今後も、個々の児童の自己肯定感を高める声掛けをするとともに、互いを認め合える学級経営について学校全体で取り組んでいく。また、教育相談等を活用しながら、不登校傾向のある児童や保護者への対応について、全職員で共通理解を図り、組織的な対応をしていく。

3-(3) 外国人児童 生徒等への 適応支援の 充実	A13 学校は、一人一人が大 切にされ、活気があり、 明るくいいきとした雰 囲気である。 【数値指標】 全体アンケートにおける 肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 教育相談や日頃の関わりを通し て、児童の悩みに寄り添い、相談 に乗ったり、問題の解決に努めた りして、児童が明るく生き生きと 学校生活を送れるようにする。 ② 児童の良さを認め、称賛の機会 を多く設定したり、児童の主体的 な活動の充実に努めたりする。	B 【達成状況】 児童 97.6% 保護者 87.0% ・ほとんどの児童が毎日登校し、全教職 員が児童一人一人に関わりをもてる環 境であるために、安心、安全な環境の中 で明るく生き生きと学習や生活をして いる。 【次年度の方針】 ・教育相談などを活用し、一人一人の児 童理解に努めることで、個を認めまし い学級集団づくりの充実に図っていく。
4-(1) 教職員の資 質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業 や児童にきめ細かな指導 を行い、学力向上を図っ ている。 【数値指標】 全体アンケートにおける 肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒教職員 90%以上	① 授業のねらいや一人一人の課題 を明確にし、板書の構造化や振り 返りを工夫して、児童の思考や理 解を深める授業の実践を図る。 ② PDCA サイクルを活用して指導の 改善を図り、一人一人への支援の 充実に目指す。 ③ 学年だより等を通して、協働的 な学習の充実に図った授業や児童 の取組についての情報発信を積極 的に行う。	B 【達成状況】 児童 97.6% 教職員 100% ・集団での学習が難しい児童におい ても、かがやきルームの利用等で個別指導 を行い、きめ細やかな指導を行ってき た。 ・授業のねらいや一人一人の課題を明 確にしたり、児童の実態に即した授業展 開を行ったり、振り返りやまとめ方の工 夫をして学力向上に努めた。 【次年度の方針】 ・授業のねらいを明確にし、分かる授業 を継続して行うことで指導の充実に図 る。 ・学年だより等を通して、協働的な学習 の充実に図った授業や、個に応じた授業 への取り組みの発信を、引き続き行う。
4-(2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員 がチームとなり、協力し て業務に取り組んでい る。 【数値指標】 全体アンケートにおける 肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① 学校の諸課題への対応や、学校 行事の実施等に、かがやきルーム 指導員や学校司書業務嘱託員、S C等の専門性を生かしながら、全 教職員が一丸となって「チーム富 屋」を意識して取り組むよう努め る。 ② 教職員一人一人の得意分野やよ さを生かす組織運営に努め、困難 を感じる業務について気軽に相談 し、助け合いながら、同僚性を高 めていく。	B 【達成状況】 教職員 94.4% ・各担任だけでなく、個々の教職員が小 さな課題も自分のこととして捉え、打ち 合わせ等で情報を共有してきた。 【次年度の方針】 ・児童の問題を、一部の教員で話し合 うのではなく、適切にケース会議の場を設 け、SC等の専門の意見を生かしなが ら対応していく必要がある。 ・教職員のよさや能力を発揮できるよ う校務分掌の適正化に努める。

4-(3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① 教職員一人一人が、自己の働き方を見つめ、勤務時間の効果的な使い方やICTを活用して業務の効率化を図る。 ② 各種行事等の企画・運営及び授業・活動等においては、ねらいを明確にしながら、実施方法の工夫・改善を推進し、教職員の負担軽減を図る。 ③ 学習情報システムをはじめとした各種システムを効果的に活用し、業務を効率的に進めるために支援員等を活用するなど教職員一人一人が負担の軽減を図っていくよう努める。 ④ 「リフレッシュウィーク」を意識することで日々の勤務時間を意識し仕事の効率化を図るよう努める。	【達成状況】 教職員 94.4% ・各種行事等の企画・運営及び授業・活動等においては、ねらいを明確にしながら、実施方法の工夫・改善を推進することで、教職員の負担軽減につなげることができた。 ・学習情報システムをはじめとした各種システムを効果的に活用し、業務を効率的に進めるために教職員一人一人が意識した。 【次年度の方針】 ・各種行事等の企画・運営及び授業・活動等においては、ねらいを明確にしながら、さらに実施方法の工夫・改善を推進し、教職員の負担軽減を図る。 ・各種システムを効果的に活用し、業務を効率的に進めるためにクラウド化を推進するなど教職員一人一人が負担の軽減を図っていくよう努める。
5-(1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① あいさつ運動や中学校訪問、冒険活動教室等行事での交流を行ったり、作品などの掲示で交流したりし、児童が中学校への期待をもつことができるよう努める。 ② 乗り入れ授業や部会ごとの業務連携などにより、教職員の交流・連携の充実を図り、教職員の資質能力の向上に努める。	【達成状況】 教職員 94.4% 保護者 89.6% ・あいさつ運動や中学校訪問、冒険活動教室等行事での交流を行い、児童が中学校への期待をもつことができた。 ・乗り入れ授業や部会ごとの業務連携などにより、教職員の交流・連携の充実を図り、教職員の資質能力の向上に努めることができた。 【次年度の方針】 ・あいさつ運動や中学校訪問、冒険活動教室や修学旅行等行事での交流を行い、児童が中学校への期待をもつことができるよう努める。
5-(2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5-(3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒保護者 85%以上 ⇒地域住民 85%以上	① 外部の人材や教育資源を有効に活用し、子どもたちの健全な育成を図る。(安全教育、性教育、キャリア教育等) ② 地域の人材や企業・施設等と連携した教育活動を推進する。 ③ 特別支援学校や高齢者施設等との交流活動やホタル愛護、米作り、民話活動等、「ふるさと学習」の充実を図る	【達成状況】 保護者 94.3% 地域住民 100% ・特別支援学校や高齢者との交流活動やホタル愛護、米作り、民話活動等、「ふるさと学習」の充実を図ることができた。 ・企業・施設等と連携した教育活動の推進に関しては課題が残る。 【次年度の方針】 ・企業・施設等と連携した教育活動を推進する。

6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 毎月安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。 ② 時期に応じて、食物アレルギー研修や心肺蘇生法講習、熱中症や感染症予防対策等を行う。	B 【達成状況】 教職員 100% 保護者 91.4% ・必要に応じた迅速な修繕や保健指導管理などが行われ、児童にとって安心、安全な環境の中で学習や生活ができています。 ・夏季には暑さ指数(WBGT)を用いて熱中症予防対策を行った。また、感染症予防対策を行った。 【次年度の方針】 ・引き続き危険箇所について迅速な改善や修繕に努め、時期に応じて熱中症予防や感染症に対する予防に加え、食物アレルギー研修や心肺蘇生法講習を行う。
6- (2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① GIGAスクール構想の趣旨を踏まえ、児童がタブレットや情報通信ネットワーク等の情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、ICT機器の管理に努めるとともに、タブレットやクロームブックが活用できる環境を引き続き整える。 ② 各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、ICTと図書資料のそれぞれの良さを生かし、学校図書館の環境整備に努める。	A 【達成状況】 教職員 94.4% ・ICT機器の管理や活用のための環境整備は行えた。 ・授業に活用するためのICT研修を行ったことで、職員の意識や能力の向上が図れた。 【次年度の方針】 ・教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備を継続していく。 ・タブレット端末のより効果的な利用ができるよう、情報関連の校内研修を積極的に行う。 ・ICTと図書資料それぞれの良さを生かしていく。
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒教職員 85.0% ⇒保護者 85.0% ⇒地域住民 85.0%	① 児童会での活動内容を工夫し、児童が主体的にあいさつについて意識できる場を設けていく。 ② 具体的な場面でのあいさつの仕方について指導し、定着を図る。 ③ 地域と連携したあいさつ週間を継続し、意識の高揚を図る。 ④ 教師自らが積極的に児童に声をかけ、日常から誰にでも元気なあいさつができる雰囲気醸成する。	A 教職員 88.9% 保護者 84.0% 地域住民 94.1% ・全体的には意識は向上しているが、個人差が大きく定着には至っていない。また、地域住民と保護者の数値指標が昨年度よりも下がっていることから、学校外での時と場に応じたあいさつ等が定着していないことが考えられる。 【次年度の方針】 ・具体的な場面を想定したあいさつの仕方について指導し、定着を図っていく。 ・校内のあいさつ週間を設定したり、児童が主体的な活動として捉えられる場を設定したりするだけでなく、家庭でもあいさつについて考える場を設定するなど、学校、保護者、地域が連携してあいさつについて意識させていく。

	B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 生活当番を中心として児童の生活状況を確認し、重点的に指導するべききまりを設定し、全職員で共通理解して、きまりについての指導に取り組む。 ② 「富屋小の生活のきまり」の中から重点項目を決め、ルールやマナーを指導し、定着を図る。児童会活動などを通して児童自らきまりの意義を考え、守れるよう工夫をする活動に取り組ませる。 ③ 児童の実態に応じた月ごとの生活目標を立て、家庭にも周知して、ルールやマナーに対する意識を高める。 ④ 児童会活動などを通して児童自らきまりの意義を考え、守れるよう工夫をする活動に取り組ませる。	B 【達成状況】 教職員 94.4% 保護者 96.0% ・生活当番を中心として児童の生活状況を確認し、重点的に指導するべききまりを設定し、全職員で共通理解して、きまりについての指導に取り組んだ。 ・児童の実態に応じた月ごとの生活目標を立て、家庭にも周知して、ルールやマナーに対する意識を高めるよう努力した。 【次年度の方針】 ・生活当番を中心として児童の生活状況を確認し、重点的に指導するべききまりを設定し、全職員で共通理解して、きまりについての指導に取り組む。 ・「富屋小の生活のきまり」の中から重点項目を決め、ルールやマナーを指導し、定着を図る。また、道徳の授業において、ルールやマナーに関わる項目を取り上げ、規範意識を高める指導を行う。
	B3 児童は、地域の良さを理解し、様々な人々とのふれあいを大切にし、地域に愛情と誇りをもっている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 生活や総合の授業における「ふるさと学習」を推進し、自分の住む地域のよさを知るとともに、近隣施設等との交流を通して、多様な人々とふれ合う機会を設ける。 ② 地域の特色を生かした総合的な学習や収穫祭等の内容を工夫し、様々な人々とのふれあいを深め、地域への愛着を深める。	A 【達成状況】 ⇒教職員 100% ⇒保護者 80.9% ・「ファイトとみや」や収穫祭、「ふるさと学習」などを通して、児童は地域の人とふれ合い、地域のよさを感じながら活動することができた。しかし、保護者への周知が足りなかった。 【次年度の方針】 ・児童が、地域の良さを学ぶ機会を、継続的に設けていく。 ・学年だよりや学校だよりで、地域とのかかわりのある活動を保護者へ発信し、周知を図る。 ・今後も今年度同様に地域との活動を継続し、様々な人々とのふれあいを深め、地域への愛着を深めることができるようにする。
	B4 児童は生活の中で、見通しをもって計画的に進めたり、そのやり方などについて改善を図ったりしている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 学期・年間の個人目標や学級目標、各行事においてのめあての設定や振り返りの充実を図る。（キャリアパスポートの活用） ② 「問い・見通し・課題解決・まとめ・振り返り」を基本とした授業の実践に努め、児童が見通しや計画の大切さに気付く指導に努める。	A 【達成状況】 ⇒児童 86.6% ⇒教職員 83.3% ・見通しをもって計画的に学習などを進めることについては、個人差が大きい。教職員にとっても、児童が見通しをもった学習を実感させることに対して難しさがある。 【次年度の方針】 ・あらゆる場面で、目標やめあてをもつこと、見通しをもつこと、結果と振り返りについて、考えられるよう指導していく。 ・様々な学習場面で、「問い・見通し・課題解決・まとめ・振り返り」を基本とした学習の実践を継続的に行い、児童が見通しや計画の大切さに気付くことができるようにする。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

本校では、学校教育目標の具現化に向け「富屋の子：元気・根気・思いやり」を合言葉とし、明るく活気に満ちた学校、地域に根ざし、地域に開かれた学校を目標として教育活動に取り組んでいる。また、富屋地区の特性である恵まれた自然、豊かな歴史と文化、地域の人々との強い絆を基盤とした潤いと活気あふれる学校づくりに取り組み、郷土を愛し、自ら考え進んで学び、次代をたくましく生きる児童の育成を目指してきた。

そのような中、学校マネジメント全体アンケートの結果では、全体的に肯定的回答の割合が高い評価項目が多かった。特に、「児童は、他者と協力したり必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。」（保護者 95.8%）「児童は、思いやりの心をもっている」（保護者 95.9%）「児童は目標に向かって、あきらめずに粘り強く取り組んでいる」（91.8%）の項目について、宇都宮市の平均を大きく上回り、昨年度から学校全体で特別活動の研究を進め、話し合い活動や学級活動の指導を丁寧に行った成果が表れたと受け止めている。

いじめ・不登校・授業等に関する教職員評価の項目については、「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している」の児童の回答 99.2%をはじめ、児童の肯定的回答は、ほとんどの項目で 95%を上回ったが、保護者の肯定的回答は、昨年度より下がり、宇都宮市の平均を下回ってしまった。

「宇都宮の良さを知っている」の項目では、肯定的回答が昨年よりも大きく上回った。コロナ感染症等の制限が緩和され、本校の特色である『ふるさと学習』が充実した結果であると思われる。

○「小中一貫教育・地域学校園」の取り組み・家庭、地域との連携・協力の項目については、昨年度より上回り、宇都宮市の平均を 5 ポイント以上上回った。[晃陽地域学校園教育ビジョン]「未来を見据え、地域と連携し、子どもが生き生きと学ぶ晃陽地域学校園」のもと学校園で情報を共有したり、こまめに連絡を取り合ったりした成果と思われる。

7 学校関係者評価

うつのみやマネジメント全体アンケートの結果を地域協議会の前に協議会委員の方に結果をお送りし、第 4 回協議会では、アンケートの結果について説明するとともに、本学校評価書における自己評価を説明し、学校関係者としての意見を求めた。

・縦割り班活動は、とても良い取り組みである。兄弟姉妹とのかかわりとは違った児童同士のかかわりが広がり、とても良い。特に上学年は、リーダーとしての自覚が生まれ、下学年の児童においても互いを認め、思いやる心が育っていると感じられる。今後も継続して行ってほしい。

・近年、両親ともに仕事をしている保護者が増えている。時間がなく手紙に目を通さず HP も見ないといった状況がある。以前は、もっと子供への関心が高かった気がする。児童と保護者の結果に差のある項目については、情報を発信するとともに保護者を巻き込んだ活動をさらに取り入れて行ってほしい。

・本年度は、150 周年記念式典、運動会（ファイト、とみや）等、子供主体の取り組みがたくさんあって良かった。児童主体で行事等を行うことによって子供が育つと考えられる。今後も子供の活躍の場を多くしてほしい。

・本校の特色である『ふるさと学習』の活動については、地域の教育力を生かして活動が活性化されるよう、生活科・総合の時間等の支援等、宇都宮の良さについて理解を深めてもらうよう取組の工夫をしていきたい。また、読み聞かせや各学年において必要とされている学習ボランティアについて今後も子供たちのために協力をしていきたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

昨年度と質問項目が異なるものがあり、すべてのデータの結果を昨年度の結果と比較することができないが、全体的に昨年度より同等またはよい評価をいただくことができた。学校の自己評価や保護者・地域協議会委員の皆様から寄せられたご意見などを真摯に受け止め、次年度の方針について具体的に検討していきたい。

・評価の高い項目に関しては、次年度も継続して指導していくものも多いが、課題のあった項目については具体策を十分に検討し取り組んでいく。特に、本年度初めて行った縦割り班活動、縦割り班給食等、また、児童主体の行事等において大きな成果を感じることができた。次年度も継続していきたい。また、教職員、児童生徒の肯定的回答率と保護者の肯定的回答率に差があったいじめ・不登校に関しては、学校生活における取組や児童の様子などを学校だよりやホームページだけでなく、ICTを活用して保護者や地域へ積極的に情報を発信するなど、学校教育活動への理解が深まるように努めていく。

・「持続可能な社会」については、“SDGs”というキーワードをもとに、学校と保護者、地域全体が連携した取組を工夫

するなど、保護者や地域の協力をもとに子供たちが学んだり考えを深めたりする具体的な取組を進め、児童の活動が充実したものになるよう努める。

・「宇都宮の良さを知っている」については、本校の特色である『ふるさと学習』の活動がより活性化されるよう地域との連携を図りながら取組の工夫・充実を図っていくとともに保護者、地域へ発信することで児童が感じている宇都宮の良さについて理解を深めてもらうよう努める。

○本年度より学校園独自の質問とした「見通しをもって計画的に進めたり、そのやり方などについて改善を図ったりしている。」の項目については、日々の活動において児童が見通しをもち、計画的かつ主体的に活動できるよう、「事前の準備」「活動内容・目的の明確化」、「振り返り」に着目し、児童主体の活動が活性化されるように努める。